

2852
2



へ13
2852
2



茶番早合吳二編下

江戸戯作者 式亭三馬撰

第十五 正月尽羽根突

亀太

あそ口上亀太一 おを徳突とや之題びんでふりまゝの羽根突
の景あそおをほらん入車トあそあそ一ニウ三イ四ウ五ウ六ウ
七ハアたその家や小とらうまれトあそあそあそさてさうそ羽
根突けいふのいおすまゝ一てふりまゝが是より
あそくまみふおが羽根せついでほらん入車ト



作者曰け人篤実の老人なりてあつても茶番にとりて老切は上も
 軽向こゆやうありて花やうの花実お對の切者といふべし初編
 お後の後るもさく惜多故人とさうぬ生涯の名茶多々ぬともさか
 世に傳へずさのひいたなりん場病麻了とま記されしを予が方小
 結らぬし小ようてこれぬき初編はせざる助六と併して其る話
 と知り老人は日幸橋十九丈橋所小住し今并捨八といひ
 文政四年己三月廿日卒佳譽淨心信士と号し

麻布谷町道源寺小築なり

若付上下大小あけさ持一体工後のゆき務をまゐるゝの
 侍とてさひなきお母さまの愛物とせりる体

おのこ後には屋敷の甚しきゆき乃ゆきなり今月八

寅待まうとん世に正月のゆき名実物とて

糸うきしこと 持縫のほひひあやと籠よ 是の寅いまちれ

八男の着せ方料理まぬがうしりま私にせち

料理を揃本お神酒まても私の上幸まら賞め

とま酒と引合せてるまふまづ半房十本人ぞん

みな里芋一升焼ごうぬ五つ大根二本ごまめ五

合かつをぶ一本うとみ本沙草のりみまふ

小招ごけやゝまのとうかち抽一玉子一

トありてドリヤちとまじしみるけやうのイヤく
 せくまじく其の日おびやともされし給をお
 へくとくあひしるる言自もやえやうどんげの
 花さくもる十八文のしまる草今まきくす亮
 のとら。若きむらしたる結経トけてイヤめんよ
 結経さぬが神酒とあけらとちつまあつと又
 誰ある神酒とト は酒さうを引よをすし
まきと草見(あけてお)の神酒を
つぎとが(は)神酒と
の心もくそ 神酒とト キ房(やう)と
トツけて
 ござうそ。おとこうれてを念のうト は念
おて 念とまたさん
 ちやうろくト 又のまア
おて 祝のあまじとみせと
 芋もまきうらふよト 又のま
一人かまきとみせと
 一モしく祝方なぐ者ぐすまきトくあるがあめハ
 儉約其行のよとてさうで者へひみさるめら
 らしめと持てまきト 白き
せや 祝と結経
 上かさん福をうらむ程はめららト あつて
 ちやう一はくあるまのしと 者
あつて 又ちやうすけの程



口小松曳

柳齋千萬多

おせんのおいふ徳と云らに去て徳小をまみ松路の極よそ
産のつまごうに徳と云そ松と云まごうまごうと云吉
也

柳齋 松路の徳は松路の松路に毎れ松と申者でり来。

小松と申と申題を申す一と云ら色く老くま

と申途の計小細町小文字がその津海路の松吉

西よ文字松と申女がりの来よと小サイ女也急

何と名を申松くと申来む女はるにて

紋一来のう小松と語ると申と云と云う小松曳

題小縁があるう小な一と故早速糸つてお後

いしと申秘言古小有あ小徳道具と云まて

是で高美乃小松川筋の引舟はさぬと申船一申

すうよろあうと申来由急本づ小松川引舟は筋を

中と申下〇聖川通う小船家あがり来と申舟の

切多を改申け切多と云と申舟をんで八通路と云

か縁申らら各極く切多を改つと云と申下ト

けのこのぬりれふごせんて名の
まをるをわすこせまけなまのつくこのまをるまのさく

舟はほのほのうのり出へキト。是が船でうキト

こみせんの 舟をさす 舟をさす 舟をさす 舟をさす
舟をさす 舟をさす 舟をさす 舟をさす

廿八舟は形はけ通るでうキト 三味線のこまを
さうまのこまをさす

お舟の肉入へのり合がた舟のうキト。後には舟合船と

中めへはぬぐか人がきとてうキト。まづかやうか老

人づのつてうキト 老松舟の 舟をさす 舟をさす
舟をさす 舟をさす 舟をさす 舟をさす

うられりうのちと見えキト 舟をさす 舟をさす
舟をさす 舟をさす 舟をさす 舟をさす

舟をさす 舟をさす 舟をさす 舟をさす
舟をさす 舟をさす 舟をさす 舟をさす

舟をさす 舟をさす 舟をさす 舟をさす
舟をさす 舟をさす 舟をさす 舟をさす

舟をさす 舟をさす 舟をさす 舟をさす
舟をさす 舟をさす 舟をさす 舟をさす

舟をさす 舟をさす 舟をさす 舟をさす
舟をさす 舟をさす 舟をさす 舟をさす

舟をさす 舟をさす 舟をさす 舟をさす
舟をさす 舟をさす 舟をさす 舟をさす

舟をさす 舟をさす 舟をさす 舟をさす
舟をさす 舟をさす 舟をさす 舟をさす

舟をさす 舟をさす 舟をさす 舟をさす
舟をさす 舟をさす 舟をさす 舟をさす

舟をさす 舟をさす 舟をさす 舟をさす
舟をさす 舟をさす 舟をさす 舟をさす

舟をさす 舟をさす 舟をさす 舟をさす
舟をさす 舟をさす 舟をさす 舟をさす

舟をさす 舟をさす 舟をさす 舟をさす
舟をさす 舟をさす 舟をさす 舟をさす

舟をさす 舟をさす 舟をさす 舟をさす
舟をさす 舟をさす 舟をさす 舟をさす

舟をさす 舟をさす 舟をさす 舟をさす
舟をさす 舟をさす 舟をさす 舟をさす

□ 三つ松

三つ松のねえりふめでしく老松の本おひまろ

□ 津柱松

津柱松のねえりふめでしく老松の本おひまろ

□ 糸松

糸松のねえりふめでしく老松の本おひまろ

□ 粉松

粉松のねえりふめでしく老松の本おひまろ

□ 市松

市松の中形をうねの入サは二の松ふりこ

□ ねえ松

ねえ松のねえりふめでしく老松の本おひまろ

□ 三つ松

三つ松のねえりふめでしく老松の本おひまろ

□ 麻島松

麻島の生れごころサ八百万の本やま

□ 土松

土松のねえりふめでしく老松の本おひまろ

□ 金松

金松のねえりふめでしく老松の本おひまろ

□ 糸松

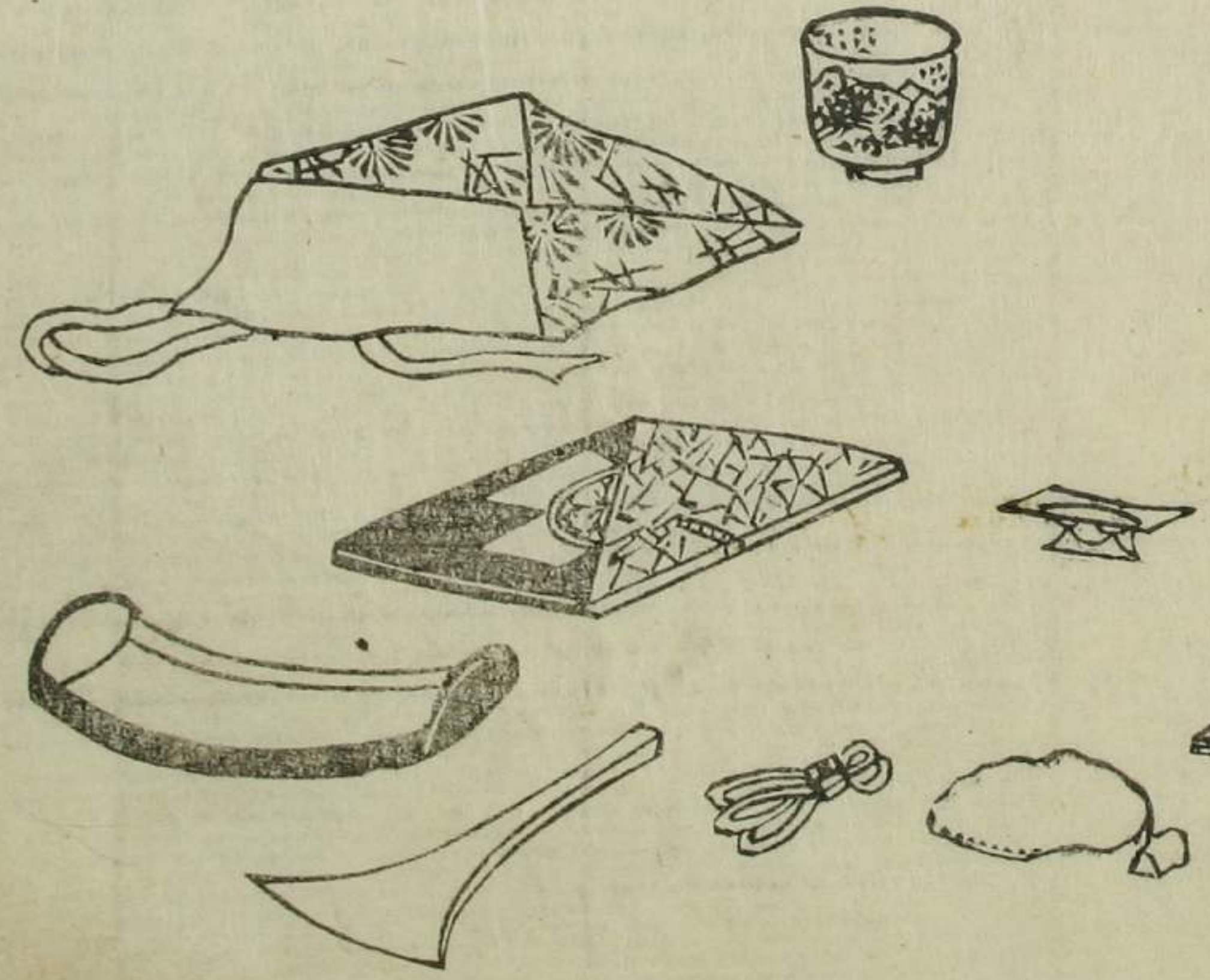
糸松のねえりふめでしく老松の本おひまろ

□ 糸松

糸松のねえりふめでしく老松の本おひまろ

小松川に引舟ハ波をさかす常船松津とくさうりふ
あつちありまのが故人文字をまへ小松川
おでうりまうら緑がわいとも甲されまきの船おひまろ

題小松引
柳齋



きつき中ときつあつり中と声をかけ中が船頭
のあつり中ときつあつり中が船頭
あつり中ときつあつり中が船頭
あつり中ときつあつり中が船頭
あつり中ときつあつり中が船頭

第十九

羽根突ふまがの 瀬川路曉

曉の形は絲つぎのまがのいでり中。何がまがの
とてうとくと。まの夜は夏をうりあるを枝に。

とやあつり中ときつあつり中が船頭

トあつり中ときつあつり中が船頭
帽子あつり中ときつあつり中が船頭
てあつり中ときつあつり中が船頭
なあつり中ときつあつり中が船頭
てあつり中ときつあつり中が船頭
てあつり中ときつあつり中が船頭

あつり中ときつあつり中が船頭

あつり中ときつあつり中が船頭

あつり中ときつあつり中が船頭

あつり中ときつあつり中が船頭



相合

題

○ 羽根
実

瀬川
路曉

かろしきまぢやアトこころの向かひ申上平ごんげんはらふ

角まがかりか九一人ごんげんは年とし取とれよまじしと申まお月つき通とを

福ふくがひひ申ま是こゝろ入い通としまああややららぐぐををちちららひひ申まひ

三さん角かく力りき取とり年とし取とれよまじしと申まハはハは三さんテて名なと

ああんとんとと申まそそのの義ぎハはたたととけけ者ものめめがが何なにのおおれれは

次つぎ志しややオオああららははてて来きれれハはいいおお友とも達だちとと申まひ

てて今いま申ま友とも達だち由よしああはは年とし取とれよまじしと申まひ

名なととままししハはハはツつトとままハは龍りゆう門もんとと申まひひトと申まひひトと申まひひ

三さん角かく力りき取とり年とし取とれよまじしと申まひ

いいつつああひひとと申まひひとと申まひひとと申まひひ

ままのの名なハは何なにとと申まひひとと申まひひとと申まひひ

玉たま川がわはは武ぶ藏ざうのの玉たま川がわでで魚いさな取とれれかかひひ

そそのの名な人ひとでで今いま申まひひとと申まひひとと申まひひ

家いえああららううとと申まひひとと申まひひとと申まひひ

ままとと申まひひとと申まひひとと申まひひとと申まひひ

ままとと申まひひとと申まひひとと申まひひとと申まひひ

江戸

本丁庵三馬撰
五渡亭國貞画

文政

六年癸未秋集成
七年甲申初春新鐫

地本

義太夫
正本校本
繪草紙

問屋西宮新六版

江戸本材木町二丁目

新入物取と出集仕の間行年々
以ひ重なるん備へ替形上り

